

作成: 芝崎

87. 思い出篇: 北海道の山奥の我が家に祖母(当時 80 代)がきた

- (1) 私が小 4 の時、父の母/祖母が北海道の山奥の我が家に来た。父は四人の兄がいて、末っ子。当時は介護施設がなく、兄弟持回りで母の面倒を。祖母は高知生まれで千葉/館山に嫁ぎ、温かな環境ばかり、冬の北海道を乗り切れるか不安で、祖母も父も北海道行には反対、でも兄貴達から説得され、ついに折れた。その時の祖母の荷物に世界史全集(20 巻程度)が?! もうボロボロで何度も読んでいた印象。祖母はその時、世界史に興味があるのだと思ったが。
- (2) ところ変わって、高校は秋田で、図書館の方に急に声を掛けられ、「千葉の出身?」と言われ、「父が千葉/館山にいたけど、..」と、急に彼が驚き、「謙平先生に教わったよ」と。私も祖父の名前で言われ驚く、(謙平は祖父の名前で旧制中学で教師)、まさか遠く離れた秋田の地で。私が 2 歳の時、祖父は他界。何を教えていたか知らず、念の為に、祖父が教えていた教科を聞いてみた。実は 5 人の息子達はすべて化学系統を専攻、祖父も理系科目の講義をしていたと先入観で思い込んでいた。彼の言葉からは、なんと「世界史」と、さらに驚天動地。祖母は世界史全集: 祖父の遺品を何度も読んでいたようだ。疑問が判明した瞬間で、人と人のつながりは多生之縁で不思議なもの🐣。

- 多:** **多**分、息子達の化学系統故、祖父も同様な傾向の類を推定
生: **生**まれてから、ずっと信じていた祖父の講義内容も息子たちと同様の学科
之: **之**のように祖母と祖父の教え子から、祖父の講義内容は世界史だとわかった
縁: **縁**とは不思議なものだと思いつく思い、改めて先入観は禁物と感じた。

➡ 点と点が結びつき線となり、長年の曖昧模糊の状態が解消された。すっきりした感じ。でも不思議なもの、高校時代は「世界史」に興味を持ち、「化学」にはなじみず。ミクロの世界はわかりにくいイメージ。科学としての物理にも関心を持ち、「機械」の分野に、その後仕事では化学に関わる機会も増えて、化学にも段々と興味が湧いてきた、もっと早く気が付いていればと、後悔先に立たず🐣。



以上